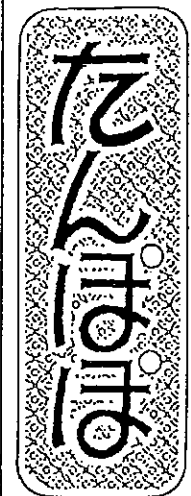


親の会総会

理事長 田中 稔

今年も5月13日(日)に熊大附属養護学校で熊本県自閉症児者親の会総会を開催しました。参加数は六十数名で、親の会の実動人数の約3分の2にあたります。

今回のテーマの一つは、今年から来年にかけて行う「親の会発足二十周年事業」ともう一つは「自閉症児者を取りまく現状と今後の対策」です。親の会はこれだけの長い年月、登録のみの方を含め毎年150〜180名の会員を維持してきました。これ程の規模を長期続けている会は、全国的にも誇れるものです。この二十年間の一人一人の親と子の歩みと、行政、教育、医療、福祉とは何であったのかをまとめて記録し、二十周年



NO. 36

H2. 5. 31.

—発行—

〒869-12

熊本県菊池郡

大津町森54-2

社会福祉法人

三気の会

三気の里

TEL096

293-8100

記念事業にしようかと計画しています。

この間、親の会の活動を支えて頂いたのは熊大の篠崎先生を初め、自閉症研究会の方々、大学、短大等の学生さんによるセラピスト会です。この支えが無かったら今日の親の会は無かったと思います。感謝しております。

しかし、ここ数年前よりセラピスト会の学生さんの数が減ってきています。障害児者へのボランティア活動といったものが学生さん達の興味を引かなくなっています。現代は3Kの時代と言われます。

「きたない」「きつい」「きけん」の嫌われる3Kです。風潮でしようか。親も又、先生や学生さんがおられる事が当たり前の様に慣れ切っていたという事もありましょ

う。今後、療育の受け皿を大きくしかりとしたものにするには、これまで二十年間の中で自閉症にかかわった人達が現場の経験等をもう一度持ち寄って話し合える新しいネットワーク、場が欲しいと思います。自閉症研究会の方々に検討頂く様お願いしました。

いずれにしても自閉症という障害が絶対的に少数派で困難な障害である事が根底にあります。参加された60数名の親達は小中学生の子供さんを持ち、そろそろ我が子の実態とその将来が気になりだした方々です。聞いてみますと、その大部分が我が子の障害はたいした事は無く、将来家庭で過ごさせたい希望を持っておられます。その受け皿があるでしょうか。

幼児や施設入所者の親は殆どの出席がありません。親の会は必要無い、関係無いという事でしよう。一方、子供達の将来を案じて黙々と支えている親達がいいます。



療育シリーズ

「普通の人」の感覚

園長 土井尚典

熊日新聞のこちら編集局の欄に記事が載った。その内容は、「迷子の障害児を保護したが、身元がわからないので、持ち物を調べたところ、どこにも連絡先が書いてなかった。保護者はしつかりしなさい。」というものであった。そのお子さんは養護学校の生徒で女性の自閉症児であった。養護学校では名札と持ち物(カバン)の裏に保護者の住所・氏名・電話番号を書くようになっていいる。保護者の方は勿論そのとおりにしていたのであるが、保護した人達はそのことには気が付かなかったようである。カバンの中を調べてみたが、住所・連絡先を示すものは見付からず、やっと、学校の名前を持ち物の中から見付け、身元が分かった次第のようである。「熊日新聞に電話をした人は、名札やカバン

の裏を何故見なかったのだろう」と父親は考えたそうである。そこで職場の同僚数人に「言葉が話せない迷子の生徒を見付けたときにどうやって身元を調べるか」聞いて見たそうである。名札やカバンの裏とか誰も思い付かなかったそうである。両親は世話になった方々にお礼を言われたおり、連絡先を書いてある場所を述べられたそうであるが、皆さん気が付かなかったそうである。そして、私に「小中学生の親なら誰でも知って居ることでも、世間では違うことを、知った良い機会になりました。」とおっしゃられました。

発達障害をもつ人達の治療教育は①障害の本質にせまること、②各個人の生活にあった適応行動を育てること、③困った行動を減らしたり予防することです。しかし、④社会の「在り方」に甘えず、自分達にも社会にも、「社会の在り方」をたえず問い掛けることが必要だと思えます。

先日、ある自閉症のお子さんが他所の児を噛むという事故がおき、多額の慰謝料を請求されるという事件を聞きました。現場を見た人が居ない中で、「自閉症児が何もしない人を噛むことなどない」と主張しても相手には通じません。噛まれた側からすれば、理由はどうあれ人を傷付けてはいけない訳です。理由があっても、すぐ噛みつく人が世の中をうろろして居ることはとんでもない訳です。

障害者側に立てば理解出来ることであっても、悪いことは悪い訳です。決して、悪いことはさせないよう配慮が必要だと思えます。また、名札の裏のように、誰でも知って居るはずだと思われることでも知らない人がたくさん居るということです。

障害者の治療教育は可能な限り「普通の人」に近づける事ならば、良きにつけ、悪きにつけ「普通の人」の感覚も身につけておかないてはならないと思えます。

開園祭



坂本由美子

三気の里が開所して4年目の開園記念祭が催されました。今年もたくさんの人達が三気の里に集まってくれ、楽しい一日になりました。昨年同様、施設周辺を一周する「オリエンテーリング」、福本先生を招いての「のだて」、熊本大学の篠崎教授、一門教授がおもしろくしてくれた「コーヒーのだて」、「木工・竹工遊び」、「丸太切り・釘打ち」、「バザー」など、盛りだくさんの催し物があり、どの催し物もボランティアさんの協力で楽しいものになりました。今回は、天津高校のブラスバンドの皆さんによる演奏もあり、祭りに花を添えてくれました。また、この日のために練習を積まれた老人会のために、地区別ゲーム大会も、白熱したゲームの結果、中陣内女子チームが優勝しました。

開園記念祭が大成功のうちに終

わることが出来たことを、協力して戴いた皆さんに感謝致します。

オリエンテーリング

快晴、オリエンテーリングには絶好の日より。準備もおとなりなく何度も確認を繰り返し、スタート予想の三百人を少々下回ったものの、開園祭中盤にさしかかると、次々と参加者がスタートして行きました。

今回は、三気の里の周辺に、6カ所のポイントを設け、ポイントごとに、かくされた文字を記録用紙に書き込んで三気の里に戻って来るといった要領だったので、記録用紙には、「みんななかま」と全て正解で記載されました。各ポイントには、天津高校の皆さんが立ち、オリエンテーリングに参加した人達に「お疲れ様」という励まし声。そのさわやかさが好評でした。また、天津高校の皆さんには、ブラスバンド演奏で、開園祭を盛り上げていただきありがとうございました。

坂井

気になる

栄養の証

めまいや耳なりがするとか、朝起きるのがひどく辛かったり乗り物の中で急に気分が悪くなったりすると、すぐに貧血かなあとか、低血圧だからと思ってしまうですね。私もそのうちの一人です。朝起きが苦手なのをありもしない貧血のせいにしてみたり等。さて、この貧血とは、どういう病気かご存知ですか。これは、赤血球に含まれているヘモグロビンの量が低下する「血液の病気」です。このヘモグロビンを作るのに必要なのが「鉄分」です。鉄分の多い食べ物として一番知られているのが、レバーです。牛よりも鶏よりも豚レバーが断然効果的です。その上、安い値段が何よりです。その他鉄分を多く含む食品は、大豆、卵黄、ほうれん草、パセリ、シジミ等の貝類、天然アユ、アサリやハマグリ、の佃煮です。毎日の食卓に上手に採り入れましょう。

牛嶋

1 班 3 歩～散歩～山歩

この春、ニューフェイス聡士くんを迎えた1班。いや～でっかいでっかい新人で、ちょっとの暇にも寝転んでしまうほどの巨体の持主。のんびりや揃いの1班にいても、置いて行かれるほどののんびりやでした。そこで早速、散歩作戦開始！1週間に2～3回、片道30分ほどのコース。古株の園生たちはぐんぐん歩いて行くのですが、聡士くんはえっちらおっちら。あっと言う間に200メートル位離れてしまいます。でも、「まってて～」と後ろから声をかけると、さすがは先輩達、追いついて行くまでちゃんと待っててくれるのです。それを目指して歩く聡士くん。おいて行かれては追いついて、おいて行っては待ち、そうやって段々と一緒に歩けるようになりました。そして、吉無田高原でのハイキングの日、私達の心配をよそに草スキー用の急斜面を元気に登りきった聡士くん。その進歩に拍手！

平川

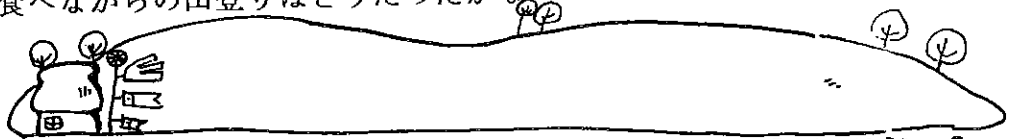
3 班 苺を食べながら・・・

5月の3班レクは、17日(木)に、景色を楽しみながら体力をつけようということで小萩山へ行きました。雨が降りそうな曇り空でしたが、園に帰るまで降らず、暑くもなく山登りにはちょうど良い天気でした。

みんな木苺・野苺を食べながらの山登り。一番食べていたのは順ちゃん、苺を探す目が真剣でした。苺より草を取っていた新ちゃん、苺より景色の方がいいと稔君、「きつかー」と言いながら登った希久ちゃん、四つん這いになって登った哲ちゃん、先頭を競っていた建ちゃんと博君、マイペースのまー君・憲一君・やっちゃん、大塚さんに甘えて登った一章君・啓君。

苺を食べながらの山登りはどうだったかな？

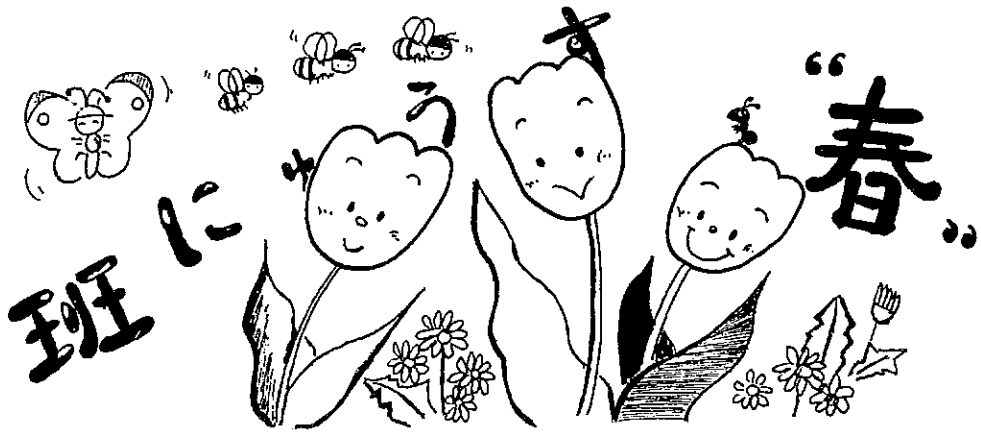
今村



5 班 カラオケハウスへ いざ出陣！

三気の里にも春が訪れ草花が芽吹き始めました。園内も色とりどりの花が咲き、明るくなったのは良かったのですが・・・と同時に根強い雑草たちもあれよ、あれよと顔を出してしまいました。そこで、生まれたばかりの5班メンバー、松島さん、宇都宮さんが、せっせと戦ってくれ、きれいになったのですが、雑草たちの回復力には勝てなかったようです。再び戦ってもらうために力をつけてもらおうと、レクレーションを行うことにしました。夜の外出。それも今人気のカラオケハウスへ！レクとしては初めての試みで、職員の方が心ウキウキ！頭の中は“春”といった感じでした。カラオケで歌うのにしらふじゃ～と言うことで、ビールまで飲んだ2人でした。ビール片手に自慢の喉を披露してくれました。思う存分歌えたかな？また、一緒にいこうね。

清田



2班 草なんかには負けないぞ

楽しいゴールデンウィークを終え、「さあ、ジャガ芋やとうもろこしは、大きくなったかな」と、畑を見に行きびっくり仰天。たった9日間の中に、きれいだっただ畑やあぜ道は、草に覆われてしまっていたのです。“草ってすごいんだなあ”と感心したのもつかの間、早速翌日から草とりが始まりました。最初は、休みが終わってすぐということで、みんな渋々といった感じで取っていたのですが、今では“草なんかには負けないぞ”といった様子でみんながんばってくれています。畑の中をとってくれる民さん、ペアでもくもくとがんばってくれる英ちゃん、武彦くん、ダイナミックな俊ちゃん、あっこちゃん、文ちゃん、小さい草はお任せの浩ちゃん、ニコニコ笑顔でたくさん取ってくれる久美ちゃん、入園したばかりのさゆりちゃん、真一郎くん、光紀くんもみんなに、負けじと頑張ってくれます。これからも、草は、どんどん生えて来るだろうけど、みんなの力があれば大丈夫。ジャガ芋やとうもろこしが収穫できるまで、みんなで力を合わせて草を退治しようね。

橋本

4班 春爛漫！豊作農場

たんぼぼの綿毛は風に飛び去り日毎に暑くなってきた今日この頃。4班の畑では、まだ寒い時期に植え付けた玉ネギや、春を感じながら作業した里芋、ジャガ芋、トウモロコシが4班の園生に負けるものかという感じで急成長しています。ビニールの開け忘れ(?)で大切な苗をダメにしたりと職員のミスも何のその、新兵器の管理機には助けられながらも黙々と草取りする園生の姿や本当に『畑らしくなった。』畑を見ていると、『今年は豊作まちがいなし!』という感じです。これまで園内で販売していた作物も、もうすぐ無人販売所という形で園外の方々のおなかを満たす事になります。「みんなで頑張った作物を色々な人に食べてもらえる。」そんな素敵なお夢が一つ叶うのです。

急成長しているみんなと一緒に次は何をしようかな…!そんなワクワクドキドキ春爛漫の4班です。

P.S.豊作祭りもやろうね!

東



入園に際して

渡辺京子

三気の里へ入所を決意した瞬間、体の力がスーッと抜け、脚がガタガタ震え、涙がドーンと溢れて来ました。2ヶ月間、悩みに悩んだ末の結果でした。

1月末頃から、子供の様子がおかしくなり、ちょっとした事に興奮し、怒り、自分の要求が通らないと腕力で掛かってくる、しかもそれが、朝、昼、夜となく時間に関係なくやって来るといふ日々が続きました。子供の変わり様にも、ただただ悲しく何時襲って来るかわからない暴力に脅え、不安は募るばかりで、毎日が緊張の連続でした。

これまでも何度か乗り越えて来た道なので、今度もいつかはという微かな願いはあったのですが、それもかなわず。お互いの幸せの

為に選んだ道です。何時の日か、子供と普通の生活が出来る日を待ち望みながら、もう一度、私の夢を三気の里に託したいと思えます。

♡ 婚約 披露パーティー

山中美津代

先日、5月5日に東指導員と佐藤さんの婚約披露パーティーを食堂で行いました。まずは、音楽に乗って登場！その後は、フィアンセの紹介やみんなからのお祝いの言葉。松島さん、誰も教えないのに「幸せな家庭を作って下さい」と挨拶。(さすが年の功)。最後はケーキカット(手を震わせながら)食べる時には、女性から男性にケーキを食べさせてあげるといったアツアツぶりも；(いいなあ)真夏のようなアツアツ日でした。

末永く、お幸せに；

P・S・しっかりカメラをとりまくったのに肝心のフィルムを入

れ忘れていた私は、本当におお馬鹿者；

しかし、きつと皆の心の中にくつきりと焼き付いた事でしょう！

食堂営業中

おかわり戦争



5人の新入園生を迎え、1ヶ月が過ぎました。三気の里の食事はおいしいですか？と聞いてみたらいろんな答えが返ってきました。さゆりちゃん：おかわりはあまり来ませんが出された物は残さず食べます。そして、元気な大きい声で『ごちそう様でした』と言ってくれます。光紀君：お茶が好きみたいです。おかわりと一緒に『お茶下さい』と湯呑みも持って来ます。さとし君：なかなか食べてくれません。しかし、今日の朝食はしっかり食べてくれたので、とつてもうれしかったよ。順ちゃん：汁物が好きみたいで、一番に食べて一番におかわりにきます。一回しか

出来ないおかわりがとても不満そうです。真ちゃん：おかわりがちょっと遅くて、売り切れ御免で貰えない時があります。このように、新しく5人が加わり園生49名で、おかわり戦争がただ今繰り広げられています。 牛嶋

ぼらんていあ通信

暑さと、寒さ。一日で二つの氣候を味わっているような今日この頃、皆さん、いかがお過ごしでしょうか。季節の変わりめ、三気の里でも風邪ひきさんが増えているようです。皆様には、お変わりなく過ごされますようご念じ致します。

さて、去る五月二十六日(土)運動公園にて、第十回熊本県精神薄弱者体育大会が開催されました。五月晴れとは名ばかりのガラガラと照りつける日差しの中、すっかり日焼けした顔に笑顔を満ち溢れさせた、たくさんのボランティアさん、ありがとう！

ボランティアありがとう

橋村のり子	山下尚美	三島由理
時田美代子	隈田佳江	山野美保
富永浩一郎	西田 徹	松田浩介
川野由香里	境 英喜	田中哲晃
上野真由美	川口隆弘	坂本誠志
赤星季美子	阪本千明	谷口敦彦
伊勢崎博香	谷 昭二	松本直哉
吉鶴喜代美	新木 隆	大枝玲子
小森田 悟	高田さん	(敬省略)

開園祭に参加して

YMCA老人ケア科

村上ます子



私は現在介護福祉士の資格を得るために勉強しています。三気の里との出会いは、本当に自分勝手な思いがきっかけでした。

第一回開園祭の時、私は障害者のことについて少しは理解しているつもりで参加させていただきました。しかし、実際園生の方々と接してみて戸惑いを感じました。

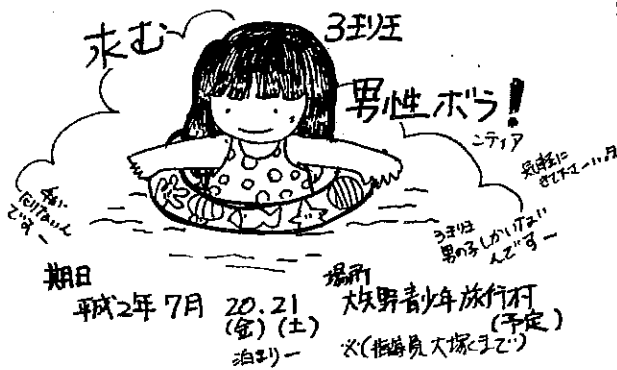
疾病のために起こる衝動的な行動や多動などがどういふものか言葉の上だけの知識であったことを痛切に感じました。そして当時3年生であった娘が園生の行動を見て驚き、当初、室内に入ることが出来なかったことも貴重な思い出です。

今回の開園祭参加へのきっかけは、娘が案内状を見てぜひ行きたいと言ったことです。当日は親娘で張り切って出掛けたのですが、園生の雰囲気の変わりようにただ驚いてしまいました。園の外回りもですが、園全体がなんとなく落ち着いて見え、時間の流れというものを感じました。そして私達人間が変化し、成長していくことも時間というものが重要であることをも。

私達はいろいろの障害をもった人達がいらっしやることは知っているつもりでいます。しかし、生身で接することは少ないため、表面的なことだけの理解や、誤解も

6月の行事予定

1(金)1班キャンプ(自然の里)11(月)	21(木)2班ワ
2(土) ↓	12(火)
3(日)	13(水)
4(月)	14(木)3班ワ
5(火)	15(金)防災訓練
6(水)体重測定	16(土)
7(木)4班ワ	17(日)
8(金)	18(月)
9(土)帰宅日 父兄会 シーツ交換	19(火)
10(日)	20(水)
	22(金)
	23(土)シーツ交換
	24(日)
	25(月)
	26(火)
	27(水)
	28(木)5班ワ
	29(金)大掃除
	30(土)



多いことだろうと思います。本当に理解し合うためには、直接ぶつかりあうことが必要ではないかと思えます。その一つの方法として、現在ボランティア活動があると思えます。そのボランティア活動が意味あるものとなるか否かは、それに関わる人々の意識に大きく左右されることが現状のようです。より良い人と人のつながりの場、出合いの場が数多くできることを望みます。

やろう会6月の日程
 14(木) 中村き・中村み・竹下
 21(木) 田中・村上・満塩
 21(木) 甲斐・島津・金森
 いつも、お手伝い御苦労様です。

編集後記

今月号のたんぽぽは、いつものとちよつと違う。どこが違うかって？まず療育シリーズ、そして班ニュース、この文章みんな自分でワープロをうってくれたんですよ。「ワープロなんて出来ない」と言っていた加代ちゃんも半日がかり、両手に指導者をおいて頑張ってくれました。自分の手で子供達の話題を届けようとするその熱意が、皆さんのところまで届いたでしょうか？でも忙しがり屋の職員のこと、いつまで続くやら。来月、ワープロ担当のお母さんの元へ届く原稿の山が目に見えかぶ……。聖子ワープロって見ると、するのって大違い。目が点になってしまいました。けれどやり始めると止まらないんですよーこれが。

加代子